

イワタ(株) (東京都江戸川区)

遺体処置製品の
ユーザー座談会を開催

遺体処置用品やエンバーミング薬品、遺体処置薬品・道具、脱脂綿、除菌剤等を販売するイワタ(株)は、9月20日、同社の遺体処置製品を使用するユーザー座談会を同社オフィシャルパートナーである(株)島田商店の第三工場で開催し、全国から納棺師や湯灌事業者、葬祭事業者など約60人が参加した。

当日は、イワタ社長の岩田壮一郎氏、島田商店社長の嶋田淳氏が挨拶したのち、はじめに美創造シリーズの新商品の使用方法・事例について説明。美創造シャンプーに関してはアイシス代表の斉藤敦子氏、美創造焼灼剤(しょうしゃくざい)については(株)吉澤企画マネージャーの山田尚輝氏がアドバイザーとして説明した。

次に、遺体処置における遺体のメイクについて、(株)キュア・エッセンス社長の宿原寿美子氏が商品の使用事例を見せながらアドバイスした。続いて、(有)統美社長の染谷幸宏氏が腹水抜きについて講演。腹水抜きの事例をはじめ、腹水抜きのメリット、事前注意事項、使用器具などについて説明した。各講演後の質疑応答では時間を長めに割り、参



加者同士で情報共有することで、参加者の技術力を向上させる絶好の機会となった。座談会終了後には同社新製品の紹介、懇親会を行なった。

今回の座談会では、参加希望者が定員を上回ったことでキャンセル待ちが10人以上出たため、次回以降は会場を変更してユーザー座談会を開催するとしている。

TEL●03-3616-1234 FAX●03-3616-4649

(株)創心社 (大阪府吹田市)

モニターパネル5枚のマルチスクリーン
「サイネージ祭壇」

Afterコロナに向かうなか、他社との差別化をいかに図ることができるかが今後の成否を分かつことになる。そこで(株)創心社では、従来の葬儀・祭壇に新たな価値を創出するデジタルサイネージを活用した「サイネージ祭壇」を開発・発表した。

特徴は、5台の縦型モニターを利用したマルチスクリーンという点。この65インチ4Kの液晶モニターを複数台使用して故人の生き様が表現できる。中央のモニターは遺影



専用モニターとして利用し、故人が愛した背景動画を組み合わせ、生前の姿を思い出すメモリアル動画が再生可能。左右2台ずつのモニターは背景動画専用とし、1枚の大スクリーンとして使えばより臨場感を高めることができる。それぞれのモニターはキャスター付きで、持ち運びが容易であり、分離することで単独のデジタルサイネージとしても利用可能である。

サイネージ祭壇のモニターパネル5枚分のサイズは高さ2.5m、横幅4.5m。パネルの縁が7.5mmの薄さで、マルチモニターにしても一体感のある200インチ相当の大スクリーンとなる。さらに最先端直下型LED部分駆動により、有機EL (Electro Luminescence) と同等の高画質を実現。

祭壇設営・撤収の省力化にもつながり、映像演出による新たな価値を付加するデジタルサイネージ祭壇である。

TEL●06-4861-0111 FAX●06-4861-0112



アルテマイスター(株)保志 (福島県会津若松市)



アルテマイスター・保志、能作の協力のもと
錫100%の常花「SUZUNA」を発売

仏壇・仏具・位牌の製造販売を行なうアルテマイスター(株)保志は、鋳物メーカー(株)能作(本社富山県高岡市)の協力のもと、錫100%の常花「SUZUNA(すずな)」の発売を開始した。

金・プラチナ・銀に次ぐ高価な金属として知られる錫は、とても柔らかく、手で容易に曲げられる。SUZUNAは、この特性を活かし、茎を自分の好きな形に整えることができるモダンでコンパクトな常花である。

常花とは、「枯れない花」「永遠に咲き続ける花」を意味する仏具の一種で、伝統的な仏壇の荘厳具(仏壇や仏像を重厚美麗に飾るもの)として供えられることが多い。



また、重厚で大きなものが主流だった仏壇は、モダンでコンパクトな形がふえ、買替え需要も高まっている。

そこで、手元供養など「小さな祈りの空間」に合う荘厳具として、艶を抑えたマットな輝きになるよう、SUZUNAの表面にはブラスト加工(細かい研磨材を打ち付ける加工方法)を施している。さらに、花の中央部分を金で装飾し、真鍮製の花立は、高岡伝統色で色付けしている。単品でもすっきりと美しく、他の仏具と並べる際にもバランスをとりやすい、品のある落ち着いた佇まいに仕上がっている。

このSUZUNAは、古くから日本人に馴染み深い花である「サクラ」と、「コスモス」をモチーフにデザイン。祈りの場だけでなく、気持ちを落ち着けたい、清浄感がほしい日常の空間にもマッチするデザインである。

TEL●0242-27-9367 FAX●0242-26-2200

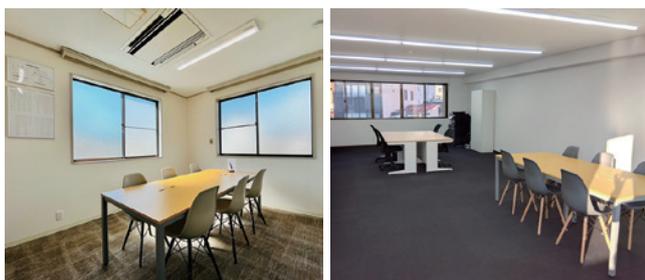
(株)マークス不動産 (東京都中央区)



事業拡大に伴い
神奈川大和支店、静岡支店を相次いで開設

葬祭事業者の不動産ビジネスサポート事業を展開する(株)マークス不動産は、神奈川・静岡エリアでの業務拡大に伴い、神奈川県大和市に「神奈川大和支店」、静岡市葵区に「静岡支店」を開設した。

同社は「事故物件」を専門に買取りをして再販売する「成仏不動産」を展開している。神奈川大和支店は、近年神奈川エリアで買取り相談が増加したことから、業務拡大により横浜支店に加えて開設した。静岡支店は、静岡県の高齢化率が30.1%、空き家率16.4%とともに全国平均を上回り、



神奈川大和支店

静岡支店

東海エリアでの買取り相談が増加していることから、浜松支店に加えて開設するに至った。

今回の2支店の開設により、全国では合計9拠点となる。同社では年内に名古屋市、24年2月に仙台市への拠点開設も予定している。

■神奈川大和支店の概要

支店長：進藤智史

所在地：〒242-0021

神奈川県大和市中央4-9-4 富士オフィス2階

TEL：046-212-2835 FAX：046-212-2836

■静岡支店の概要

支店長：笹尾里枝

所在地：〒420-0867

静岡市葵区馬場町116 MTビル30D号室

TEL：050-8890-8875 FAX：050-8890-8876